

1 研究主題

社会を見つめ、未来を問い続ける社会科教育の創造
～「問い」と「資料」を通して、想像豊かに探求していく学びを創造する～

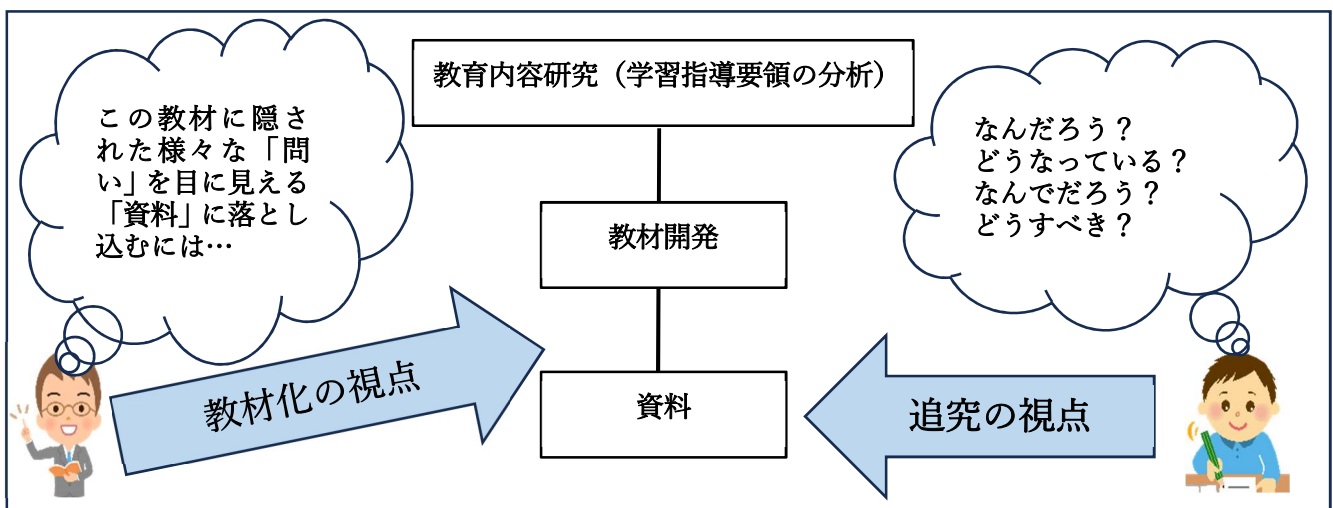
2 研究仮説

「問い」と「資料」をセットで捉えた社会科教材開発を行うことを通して、資料に明確な目的をもたせ、問いの深まりを実現する問題解決的な単元構成の工夫を行い、子どもが想像を働かせ生き生きと学ぶ社会科授業づくりを進めれば、社会を見つめ、よりよい未来を問い続ける社会科授業の創造につながるだろう。

3 研究の内容

視点1【教材開発】

「問い」と「資料」をセットで捉えた社会科教材開発を行う。



視点2 【問いでつなげる単元構成】

問いの深まりを実現する単元構成の工夫を行うことで、協働的・探究的に問題解決的な学習を進める対話的で深い学びを実現する。

問いの深まり・深い学び

社会的事象と出会う問い

私たちの生活に欠かさない、なくてはならない工業製品といたら何だろう？

学習問題に向かう問い

自動車は1日に何台くらい生産されているのだろう？

みんなで追究・解決するテーマ性のある大きな問い【単元の学習問題】

自動車をつくる人々は、どのようにして自動車をたくさんつくっているのだろう？

学習問題を追究・解決する（事象を調べる）ための具体の問い

仲間同士の役割分担？ 機械と協力？ 部品のつくりおき？ 工場と協力？ 海外生産？

学習問題に立ち返り、まとめに向かう問いかけ

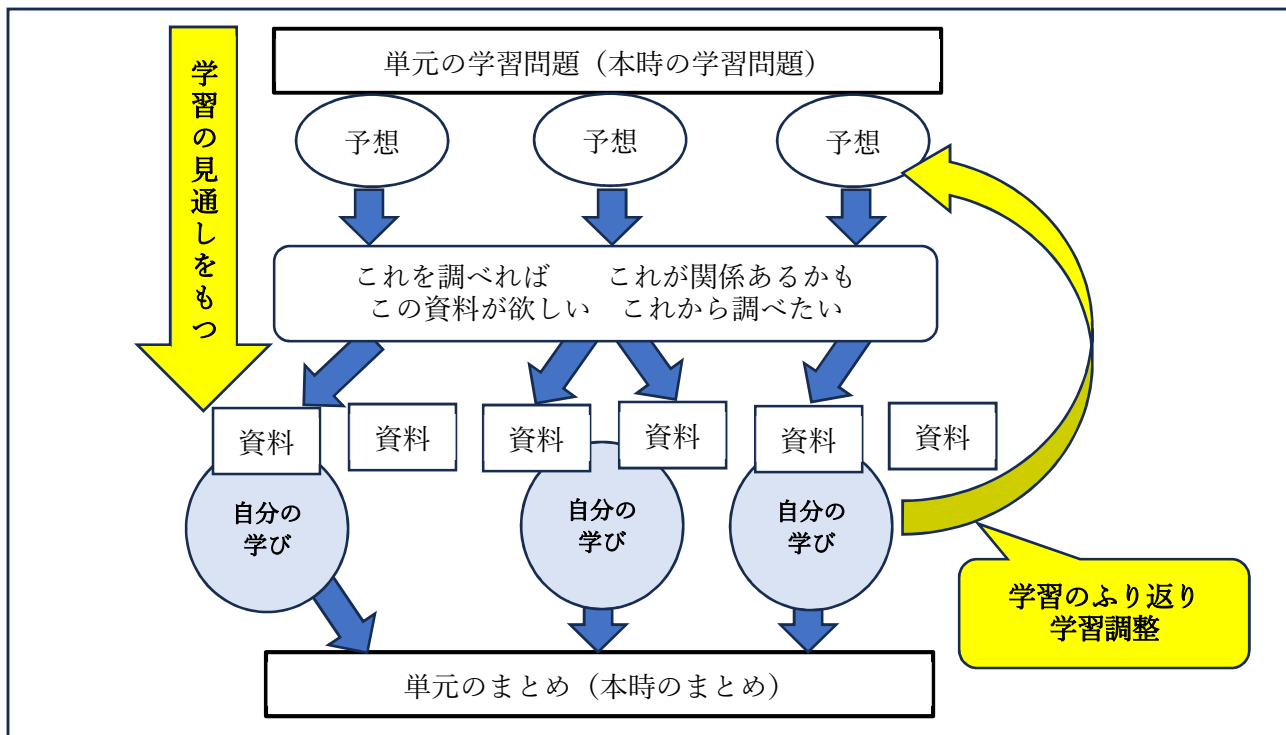
自動車をつくる人々は、買う人の願いや社会の変化に応える自動車をたくさん作るために、どのような工夫や努力をしているのだろうか？

実社会につなげる問い

ガソリン車、ハイブリッド車、電気自動車、水素自動車、開発に力を入れるのはどの自動車？

視点3 【主体的な資料の選択・判断】

想像豊かに課題に対する予想を立て、その予想を解決するための学習計画を立てたり解決に必要な資料を選択・決定させたりすることで、個別最適な学びを実現する。



視点4 【資料の目的の明確化】

資料に明確な目的をもたせることで、子どもの思考のスイッチを入れ、子どもが生き生きと学ぶ主体的な学びを実現する。

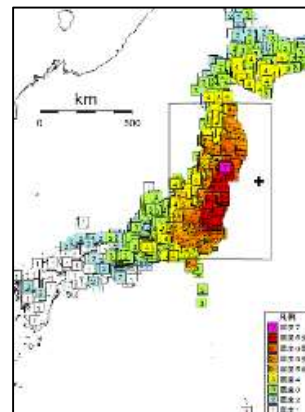
(1) 出会いの資料

工場に西日本豪雨の被害がなくても働いている人の家に被害があったら働きに来ることができない。従業員の安全を第一に考えると止めるしかないよね。



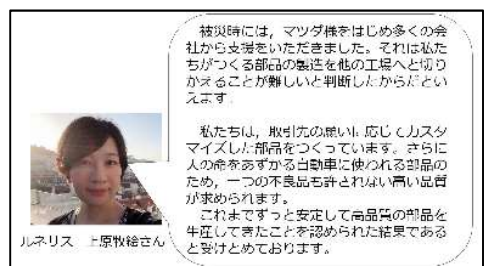
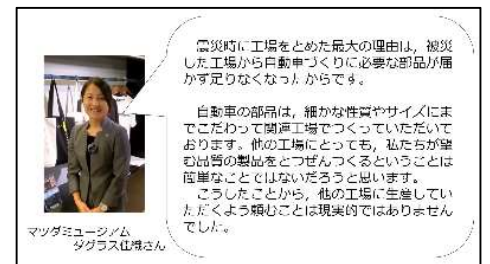
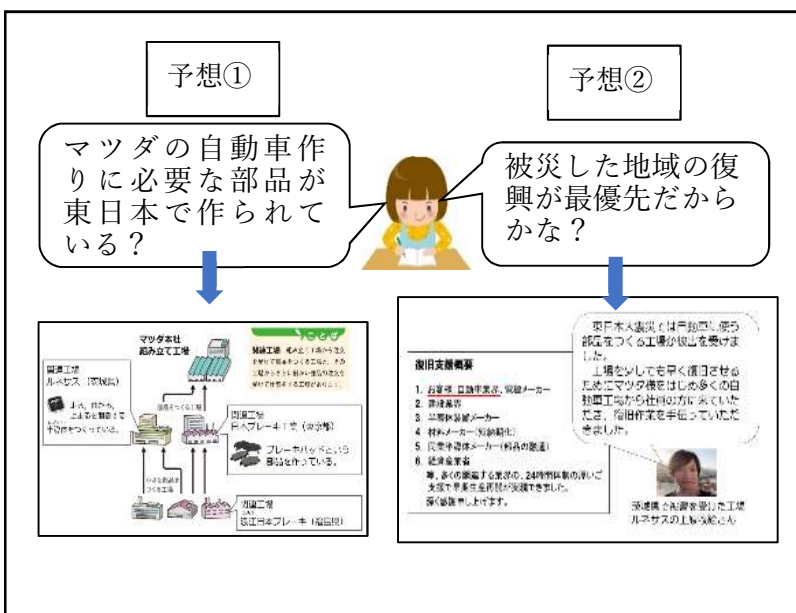
(2) 問いを生み出す資料

東日本で起きた震災で広島に大きな被害は出たのかな？西日本豪雨とは違って従業員にも被害はなさそうだけど…



(3) 予想をもとに調べるための資料

(4) 確かめる（納得する）ための資料



視点5 【学習のまとめの充実】

焦点化する問いにより学習問題に立ち返って話し合うことを促し、本時のまとめにおいて自分の考えを豊かに表現させることで、深い学びを充実させる。

本時の学習問題（単元の学習課題を追究・解決するための問い）

○東日本大震災による直接的な被害はないのに、なぜマツダは工場での生産をとめたのだろう？

自動車の部品は全てマツダで作っているわけではないんだね。部品を作っている関連工場は被害が大きかった地方にもあるね。この工場に被害があったら…



実際、被害にあっているみたいだね。部品がないと自動車はつくれない。だから、マツダの社員を被災地に派遣したんじゃないかな。

関連工場が東北地方にあるということだけでは学習問題に対する答えとしては不十分。関連工場の技術の高さ、マツダの関連工場の製品に対する信頼について考え、組立工場と関連工場の関係を縦のつながりではなく、「支え合うパートナー」であることについて捉えさせたい。

焦点化する問い

○被災していない別の会社に部品をつくるよう頼む方が、いち早く自動車をつくり届けることができたのではないか？

マツダが工場をとめたのは、被災した工場でしか作れない品質の良い部品が届かなくなったから。関連工場の技術は高く、マツダと関連工場はお互いに協力して良い自動車を作っていると分かった。

